

飯田市長 佐藤健 様

2024年11月28日

リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会

代表世話人 熊谷清人

〃 大坪勇

〃 北林強

要望書

11月23日の新聞報道によれば、「JR東海が飯田市のリニア中央新幹線橋りょう工事で基準値を超えるヒ素などの重金属を含む要対策土の使用を計画していることを巡り、同市の佐藤健市長は22日の記者会見で、『JRは県環境影響評価技術委員会の指摘にしっかりと応えてほしい』と述べた。近く、JRに申し入れる。」とされています。

私たち住民の会はこの要対策土の問題を巡っては本年3月、7月、10月、11月と、特に7月には6400余の賛同署名を添えて、飯田市に要望書を提出し、市としてJR東海に対し駅工事に要対策土を使用しないよう要請することを求め続けてきました。

私たちとしては市当局もやっと問題に気がつきはじめたと思うところですが、急ぎJR東海と県に対して「要対策土を使用しないよう求める」表明をしていただきたいと思いません。

技術委員会の指摘は「いくら私有地といってもわざわざ居住地帯の真ん中でかつ地下水位の高いところに持ってくるのは、環境行政の考え方としておかしい」

ここにつきます。

言うまでもなくこの工事場所はリニア新駅の橋脚であり、その基礎です。居住地帯、なかでもその中心地に有害残土を持ち込もうと言うのですから疑問が晴れないのは当たり前です。そして地下水位の高い場所で行われるケーソン工法の工事、その橋脚の基礎の中詰め材ですから地下水位より深い場所に埋められることとなります。

そんな場所に有害物質を持ち込もうということが基本的に問題なのです。

そして、この疑問に答える方法は「要対策土の持ち込みの計画をとりやめ、中詰め材には現地で発生する残土を用いて、直ちに工事を再開させる」ことしかありません。

県知事の助言が出されようとしている現段階で飯田市としてはJR東海に対して、はっきりと要対策土の持ち込みに反対の表明をし、住民の生活と健康・環境を守る態度を鮮明にすることが求められます。

また、再度、県に対しても市は環境保全計画に対する地元自治体の意見として「要対策土の持ち込みに反対する」ことを直ちに届けることが重要です。